

環境衛生課からの お知らせ

環境衛生課（吉備庁舎）
清水行政局 建設環境室

「ごみ分別すれば資源」

プラスチックベール検査で 今年も最高評価「A」

●皆さまの分別が資源の品質を支えています

有田川町は、年2回行われる「プラスチックベール品質検査」で、今年も最高評価の「A」判定を受けました。この評価は10年以上連続となります。

プラスチックベールとは、家庭から出されたプラスチックごみをプラスチック収集場で選別・圧縮し、再資源化のためにまとめたものです。品質検査では、そのベールを実際に分解し、異物の混入状況や資源としての品質を確認します。

今回の検査では、刃物などの禁忌品（混入してはいけないもの）は確認されず、異物の混入も極めて少ない良好な結果でした。

プラスチックごみは、分別が適切に行われて初めて資源として生まれ変わることができます。反対に、汚れたものや異物が多く混入すると、再資源化が難しくなり、資源として利用できなくなる場合があります。

有田川町が継続して高い評価を受けているのは、

・プラスチック製容器包装を正しく分別する。

・汚れたものは洗浄し、落ちないものは不燃ごみとして出す。

・プラスチック以外のものを混ぜないよう心掛ける。

といった町民の皆さまの日頃のご協力のおかげです。

皆さまが分別したプラスチックは、貴重な資源として再利用されています。これからも限りある資源を有効活用するため、引き続き適正な分別にご協力をお願いします。

河川敷などでごみの放置発生

昨年の夏、町内の河川敷や道路沿いで、キャンプやレジャーの後と思われるごみの放置が確認されました（写真参照）。

放置されたごみは、景観を損なうだけでなく、悪臭や害虫の発生、不法投棄の誘発など、地域の生活環境に悪影響を及ぼします。また、回収や処分には多くの人手や費用が必要となります。

有田川町では、和歌山県と連携し、監視パトロールや監視カメラの設置など、不法投棄防止対策に取り組んでいます。

ごみは必ず持ち帰り適切に処分してください。皆さまのご理解とご協力をお願いします。



家庭から出る 燃えるごみの収集量

令8年（2026年）5月／約294トン
前月から約1トンの増加

"SDGs（エス・ディー・ジーズ）"これは国連が定めた「持続可能な開発目標」の呼び名です。ごく簡単にいうと「みんなが幸せで快適な生活を送れるような未来を作るための目標」でしょうか。

私たち生活者が直接 SDGs に取り組める活動の一つがごみの減量化です。より良い地球の未来のためにごみを減らしましょう。

